

精神疾患患者さんの看取りについて －事例をもとに－

大阪鉄道病院緩和ケア内科
和田知未

1. 精神疾患に関する理解について

正常心理の応用では了解できない病理が存在する

量的な異常



異常 正常 異常

質的な異常



正常 異常

心を砕いて接しても、感謝や信頼といった通常期待される反応が必ずしも得られない

何が分からないかが分からない
患者からしか学べない

2. 医療者側のこころもちについて

「どうしてあげたらよいのか」
うまくいっていない感じ、無力感、陰性感情

「もっとよくなる」ものなのか「これでよし」とする
のか

Negative Capability

不確かさ、不可思議さ、疑惑の中にあって、性急に事実や理由をつかもうとせず、そこに居続けられる能力

3. 意思決定について

精神を病んでいても、たいてい「意向」は存在する

支援者の意向も含めて方向性が決まる

言語的なコミュニケーション以外の情報を寄せ集めて
押し量ってゆく

意向や実行可能性は途中途中で変化してゆく

「ずっと帰りたがっていたので、訪問の先生や看護師
さんに助けてもらい家で看られてよかったと思う」